

## 四者協開催

7月31日（水）もくせい会館にて令和6年度福生市地区児童委員、児童相談所、学校、こども家庭支援センター等の関係機関による地区連絡協議会（以下、四者協）が開催されました。四者協とは、地域の児童に関わる問題について、四つの関係機関が情報交換等を行い、互いの理解を深め関係を強化し、児童福祉の向上を図るために毎年実施している協議会です。

福生市内の全小中学校から校長先生や教員の方々及び学校教育関係者、立川児童相談所職員、福生市子ども家庭支援センター職員、福生市民生委員児童委員の四者、合わせて約80名と昨年に続き大変多くの方に参加して頂きました。

前半の講演会では講師の森岡歯科医院、森岡俊介氏から「子どもの口腔からみえる家庭環境の理解と対応」をテーマにお話をして頂きました。



特に印象に残ったポイントを以下の4点にまとめました。

### 1.う蝕と被虐待児の関連性

森岡氏の歯科医師としてのご経験とデータにより、口腔内の状態が悪い（う蝕、未処置歯、歯周病などがある）子どもは被虐待の可能性が高い。口腔状態は家庭環境や子どもの生活状況を反映する重要な指標である。

### 2.口腔状態からネグレクトの発見

子どもの口腔状態を観察することで、ネグレクトの兆候を見つかることができるという点がとても重要。歯科医師や教員などの学校関係者が早期に発見し、適切な支援を行うことが求められる。

### 3.家庭環境の整備の必要性

子どもの口腔状態を含めた健康的な成長を支えるためには、家庭環境を整える必要性が強調された。特に養育者の心身の問題や経済的な理由が家庭環境に影響を与えるため、これらの課題に対する支援が求められる。

### 4.口腔の機能と正しい歯科知識の重要性

口腔の機能として生きるために食べ物を食べる以外の運動能力、話すなどの社会性、歌うこと、味覚、歯ざわりなどの感覚、感情表現などがあるということ。噛むことの大切さ、乳歯と永久歯の違い、歯科疾患などについて正しい知識を持つことが子どもの健康な口腔環境を維持するために重要である。



今回の講演を通じて、子どもの口腔状態は家庭環境の鏡であり、早期発見と適切な対応、各関係機関の連携の重要性を学びました。

子どもの健全な成長のためには、あらゆる角度からの学びと多方面からの支援が必要だとの認識を強く持つことができ、貴重なお話を聞かせていただきました。

後半のグループワークでは模擬事例を通して各機関の意見交換を行いました。

検討事例は「転入してきた母子世帯への支援のために関係機関の連携と対応を考える」ということで、グループの皆さんそれぞれの立場や視点から色々な意見が出ました。

小・中学校の先生方からは子どもや家庭の状況把握が重要で学校全体での共有をしているが、ご家庭とつながりにくいケースもあり対応が難しいなどのお話や、児童相談所の方からは、いくつかの情報の中からどのように各関係機関が関わっていくかの糸口を教えてください、大変有意義な時間となりました。

各グループの発表では、学校からの情報共有がないと地域では動くことは難しい。学校以外での生活面を把握するのは、地域や関係機関からの情報が不可欠などの意見が出て、情報共有の必要性を感じました。

更に共有された情報を各機関が連携を図り、有効な支援に繋げていけるかが重要だという意見でまとまりました。

「情報共有と連携」を念頭におき、地域の目としての児童委員の役割を担う一人として活動して行きたいと思いました。

年に一度ではありますが、四者が一堂に会して子どもたちの為にできることを考える時間を持つことは大変ありがたい機会だと思います。

今回共有したことが言葉だけにならないように、各自何が出来るのかを考え行動すること、必要な機関に繋いで行くことが、より多くの子どもや家庭を救う為に重要だと感じました。

四者が今後益々の連携を図り、福生の子どもたちが安心安全に過ごせるように、必要なところに必要な支援が届くように取り組もうとの思いを共有して閉会となりました。

